

## 【戸塚区】平成 30 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	平成 30 年 2 月 6 日(火) 14 時 00 分 ～ 15 時 30 分
場 所	戸塚区総合庁舎 9 階特別会議室
出席者	<p>【座 長】岩崎ひろし議員</p> <p>【議 員：5 名】鈴木太郎議員、中島光徳議員、坂本勝司議員 伏見幸枝議員、山浦英太議員、</p> <p>【戸塚区：23 名】田雑由紀乃区長、鈴木栄副区長、塚本光俊福祉保健センター長、鈴木裕子福祉保健センター担当部長、橋本孝二土木事務所長、名取正暁戸塚消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	・平成 30 年度個性ある区づくり推進費 戸塚区予算案
発言の旨	<p>鈴木議員：7 ページ「がんについて考えよう～とつかがん対策事業～」について、子宮頸がんのワクチンの予防接種について、戸塚区はどのようなスタンスなのか。</p> <p>松本福祉保健課長：子宮頸がんのワクチンの予防接種については、いろいろと議論があるなかで、積極的な勧奨はしないという国の方向性は尊重していきたい。慎重に対応していくが、情報は出していきたいと考えている。また、多くの女性ががん検診への抵抗感を持っているので、検診は非常に有効な手段であることを啓発していく必要があると考えている。</p> <p>鈴木議員：9 ページに「保育所地域子育てパワーアップ事業」があるが、保育所ということで、「ももの会」が運営する保育園の 4 月入所の募集についてはこれまでと同様に募集をしているようだが、入所を希望している保護者へ情報がきちんと行き届いているのか。安全にやっつけられることは担保されているのか。</p>

繁野学校連携・こども担当課長：「ももの会」については、2月末までに法人からこども青少年局へ改善報告が出される予定だ。「ももの会」が区内で運営する5園については、他の園と同じように募集しているが、希望者も多い。ただし、昨年度と比べると募集枠は少なくなっている。情報に関しては、一般の方に対して広くお知らせするという機会は設けていないが、法人が保護者説明会を定期的に設けて説明している。説明会には、局や区の職員も同席している。保育の安全ということでは、「ももの会」が運営する園で多くの保育士が辞めてしまったということもなく、また、保育の質の担保ということでは区がきちんと指導しながら対応していきたいと考えている。

鈴木議員：13 ページ「とつかブランド向上事業」について、「おいしいもの とつかブランド」の認定をもう一度募集してくれないかという話を聞く。そういった声に応えてもらうことはできるのか。

寒河江区政推進長：「おいしいもの とつかブランド」は、区制75周年イベントで募集してから4年が経過している。区制80周年が認定品の内容を見直して充実する機会となると考えている。

鈴木議員：下川町との交流については、下川町からは職員が何度も来ているので、区の職員も下川町へ行っていただきたい。遠方で経費もかかり予算の制約もあるだろうが、行こうという意識を持ってもらいたい。

田雑区長：出張旅費の執行については厳しい時代だが、多くの職員に下川町との交流の現場を見てほしいこともあるので、検討したい。

鈴木議員：14 ページ「効果的で分かりやすい広報事業」について、東京の特別区では、事業者と協定を結んで、限定した地域での地域SNSで区の行政情報の提供を行っている。チラシなどをデジタルデータ化してSNSで見られるようにしている。こういった手法も検討してほしい。

寒河江区政推進課長：地域SNSについては不勉強で認識していなかった。広報で一番悩むところは、若い世代の方へどうやって行政情報を伝えていくかということだ。広報よこはまも、若い世代へ届いていないの

かなと感じている。戸塚駅などで配られている地域情報誌に行政情報を載せて、どれくらい効果があるのかを試してみたところ、区のホームページへのアクセスが通常のアクセス件数の2倍ほどになった。今後もいろいろなやり方を研究していきたい。

伏見議員：3ページの「青少年健全育成事業」について、昨年始めた「とつかこども起業塾」に賛同してくれた店舗数はどのくらいあったのか。  
また、子どもたちの感想などにはどのようなものがあったのか。

卯都木地域振興課長：協力いただいた店舗は3店舗あり、パンの「ぷちらぱん」、中華料理の「チャイナテーブル 花木蘭」には商品開発から販売まで協力をいただき、横浜信用金庫に資金計画等について子どもたちに教えていただいた。

感想等については、例えば、区民まつりで販売をした時にチラシを配った時になかなか取ってもらえず、街でチラシを配っている人がとってもらえなかったときの気持ちがわかったとか、お店の資金繰りなどはこれまで全く想像もしたことがなかった、応対研修で口角をあげると印象がよくなる、「いらっしやいませ。」をドレミファソラシドのソの音くらいで始めるとよいなど、これまで学校で勉強できないことが勉強できてよかったというものが多かった。次回もあつたらまたやりたいという子どもが多かった。

伏見議員：5ページの「青少年健全育成事業 防災力強化」について、いろいろと取り組んでいただいてありがたい。地域で日中に災害が起きたときは、地元の子どもたちと地域の消防団や地域の高齢者が中心になって自助共助をやっていかなければならないので、引き続き取り組んでいただきたい。

11ページの「地域文化振興事業」について、区内での DanceDanceDance @YOKOHAMA は、これからどのように取り組んでいくのか。

卯都木地域振興課長：具体的にどのようにしていくかは、まだ決まっていない。今やっているストリートライブなどとコラボすることや、文化観光局との住み分けも含めて考えていきたい。

伏見議員：区内でもいろいろなイベントをしていただきたい。ディスコみたいなイベントもあればすごく元気になると思う。

山浦議員：6ページの「交通安全・放置自転車対策事業」について、放置自転車対策の監視員の配置は、どのくらいの規模のものか、配置人数や回数を教えてほしい。

卯都木地域振興課長：戸塚駅周辺では、4人程度の監視員を週に5回程度配置し、東戸塚駅については、若干エリアが狭いこともあり3人を週3回程度と考えている。

山浦議員：戸塚区で放置自転車が保管場所に移動された台数を教えてほしい。

卯都木地域振興課長：手元に資料がないため、後ほど資料で提出する。

山浦議員：家や店の前に置いてある放置自転車をどうしたらよいかかわからないという声が上がっている。警察では盗難車でないので対応できない。戸塚区役所のホームページでは、放置自転車の対応の仕方があり、作成担当課は戸塚土木事務所だった。放置自転車の対応をどうやって区民へ周知していくのか。

白井土木事務所副所長：公道に放置してある自転車等については、土木事務所で対応する。公道で交通の支障となっている放置自転車があれば連絡していただきたい。これまでに平成24年3月に戸塚駅周辺の地下に収容台数1,300台の駐輪場を整備し、一昨年には高架道路の下に新しく駐輪場を整備した。迷惑駐輪については、買い物などの一時利用で止めていることが多く通行の支障になっている。解決する一つの手段として、新しくオープンする商業施設等については、駐輪場の設置を義務化する方向である。一時利用の駐輪対策について、道路局等関係部署と連携しながら戸塚駅周辺の対策に取り組んでいきたい。

山浦議員：12ページの「美化推進事業」について、たばこの喫煙所が整備されて、3月1日から戸塚駅周辺も喫煙禁止地区に指定され、違反者に

は過料徴収が適用されるが、喫煙所の清掃は業務委託しているのか。

黒川資源化推進担当課長：現在3か所の喫煙場所を設置しているが、清掃については資源循環局で委託契約をし、1日1回清掃している。

山浦議員：戸塚駅周辺の喫煙禁止地区についての意見募集では、主にどのような意見があったのか。

黒川資源化推進担当課長：資源循環局のホームページを使って意見募集を行った。意見を反映してエリアを多少拡大した。その他の意見として、「喫煙所を早く作ってほしい。」、喫煙する方から「喫煙場所があればそこでたばこを吸います。」というものがあつた。「指定範囲を広げてほしい。」という意見が多かつたので、今後の参考とさせていただく。喫煙禁止地区の指定については、たばこを吸う方、吸わない方を含めて総論として賛成ということであつた。

山浦議員：3月1日以降喫煙所で吸う人が多くなると思うので、1日1回の清掃で追いつかない場合は、柔軟に対応していただきたい。

14ページの「区民に身近な広聴・相談事業」について、生活保護の相談はどのくらいあるのか。生活保護の受給者がどのくらいいて、どういう相談内容なのか教えてほしい。

窪野生活支援課長：生活保護は、12月現在、2,743世帯が受給している。相談内容で多いのは、仕事がなくなったことによる収入の減、病気などによる収入の減が多い。

山浦議員：生活保護費の受給日前にお金が無くなると前借ができるが、それでも生活に困るといふ場合にはどのような対応が考えられるのか。

窪野生活支援課長：生活保護費については、基本的に月額で本人の年齢や世帯の状況等によりその額は決まっているので、それ以上の支給はできない。うまくお金を使えない方の場合は、支給額内で使っていただくように指導している。

山浦議員：困っている方もいるので、お金の使い方のアドバイスも含めて今後も指導を続けてほしい。

中島議員：今月できるエスカレーターには、ぜひ音声案内をつけていただきたいとお話してきたが、その後の対応はどうなっているのか。

齋藤総務課長：エスカレーターにはもともと基本的な音声案内がパッケージされている。2月19日のエレベーターの稼働に向けて、戸塚区のオリジナルの案内をつけることは難しいが、区の社会福祉協議会を通じて、視覚障害者の当事者団体の方に来ていただいて意見や改善点を伺う調整をしている。区のオリジナルの音声案内をつけると100万円を超える経費がかかるので、予算の調整も大変だが、できるだけご不便のないように対応していきたい。

中島議員：生活動線は大事なことで、ちょっとした工夫が大きな事故を防ぐことがある。視覚障害者の方が安全・安心してエスカレーターを利用できるようにする注意を促す音声案内は、ちょっとした工夫だと思う。ぜひ検討していただきたい。

8ページの「子育て応援事業」の地域子育て支援拠点について、こども青少年局の予算の中にサテライトの予算がついて、来年の3月末までに戸塚区に開設する予算がついているが、場所はどこなのか、また、個性ある区づくり推進費の予算に入っているのか、ということを確認したい。

土井こども家庭支援課長：来年3月末までに戸塚区に設置する予定で、区でも準備を進めている。場所の選定については、こども青少年局は、現在の子育て支援拠点とは異なるエリアで、かつ、子育て家庭が多いなどニーズが高く、利用が多く見込まれる地域としている。そのため、東戸塚とは違うエリアで、出生数が多く、広く区内から来やすい交通アクセスの良いところということから、戸塚駅の周辺を検討している。また、ほかの親と子のつどいの広場などの施設とは競合しないよう検討する。

予算については、区配事業となるので、区づくり推進費には含まれていない。

中島議員：戸塚駅周辺で交通のアクセスの良い場所に設置していただきたい。

5ページの『「災害に強いまちとつか」に向けた防災・減災強化事業』について、地域防災拠点の訓練に参加している人や運営している人の声を直接聴くと、最近訓練に参加する方も増えてきていて、内容もずいぶん充実してきていると思う。地域防災拠点を運営するための訓練では、何度も訓練することで、徐々に対応力や課題認識も増えてくると思う。その一方で、マンションの方々には、訓練で地域防災拠点へ来ているが、マンションの中にいた方が安全なのではないか、マンション内で何とかした方が良いのではないかと思いつめている方もいる。マンションが多く、またこれからも増えていく戸塚で、地域防災に強いまちをつくろうとすると、マンションや集合住宅の防災力を強化して、地域防災拠点に頼らない仕組みが大事になっていくのではないか。熊本地震などでも、学校の体育館などの避難場所にたくさんの被災者が押し寄せてしまって対応できなかったという例がある。地域防災拠点の対応力の強化も大事だが、いかに地域防災拠点に来なくても済ませられるかという仕掛けも大事かと思うが、その辺どうか。

齋藤総務課長：地域防災拠点は、対象エリアに住む全ての方が避難しようとしても収容できない。マンション・戸建にかかわらず、日頃から食料やトイレの備えがあれば、避難所で集団生活をしなくても、自宅で避難生活を送れることもある。広報よこはま区版3月号では、過去の大きな災害時に、実際にライフラインが復活するまでに何日くらいかかったかというデータも示しながら、被災した後も自宅で安全に過ごせる工夫などを紹介する特集を組んでいる。マンション単位での訓練の実施というのは、要請があれば講演や講義などを行っているが、マンションに特化した区役所からの仕掛けについては、検討課題とさせていただきたい。

中島議員：マンションが倒壊して地域防災拠点へ行かなければいけないという現状は、よほどの震災でなければ想定されないので、地域防災拠点の対応力強化の一つに、マンション防災の推進というのも戸塚区の特徴として入れて良いと思う。今後の検討課題としていただきたい。

先日、東戸塚駅で人身事故が起こった。東戸塚駅はホームドアの対象駅で、安全対策の推進でも対象駅になっている。鶴見駅などではホーム

ドアの設置が予定されているが、東戸塚駅が対象に入っていないのは、設置が難しいために対象になっていないのか。通過する車両があることはリスクが高いため、区役所としても区民の安全の観点で取組をしっかりとっていただきたい。

寒河江区政推進課長：都市整備局の予算概要等を見ると、ホームドアの設置予定について、JR東日本が公表しているベースでは32年度までの間の予定には東戸塚駅はない。当面の間、京浜東北線・根岸線から整備していくとされている。混雑具合、危険度等については区役所も十分に承知しているので、都市整備局とともにJR東日本へ対して働きかけをしていきたい。

中島議員：昨年末に発生した火災現場へ行ったが、消防署の指揮官や消防団の方が、途方に暮れる罹災者の方に寄り添って一所懸命話を聞いて安心させている姿を見て非常に安心した。罹災証明や見舞金の請求などの手続きは、高齢者や要支援者の方にはなかなかできない。地域ケアプラザの職員もきめ細かく対応しフォローしていた。突然の火災や犯罪にあった区民の方など困ったことにあった時にどのようにしたらよいかわかりにくい。そうした支援を求めてきた人を受け止めて関係各部署へ繋いでいくワンストップ窓口をつくって、しっかりときめ細かく寄り添った対応ができると区民も安心できると思う。

名取戸塚消防署長：罹災された方々に対して私たちに何ができるのかということを中心に考えている。罹災された方には、窓口がどこかということをしつかりとお伝えすることは最低限できるだろうと、年末の火災では罹災者へ何回か電話をかけたりにして、できる限りのことはやっている。一方で、次の火災が発生することもあり、火災後の対応には限りがある。これからも区役所や地域ケアプラザなどと、どのように関わって支援ができるのか検討させていただく。

坂本議員：4ページの「区制80周年記念関連事業」について、予算はどういうイメージなのか。

齋藤総務課長：予算は関連事業費として200万円計上している。まず、1



月の賀詞交歓会に区制 80 周年を祝うスタートというエッセンスを入れ実施したい。また、31 年 4 月 1 日戸塚区の誕生日に向けて機運を盛り上げていく広報費を考えている。他区の周年事業では、のぼり旗や商店街のフラッグというもので機運を高めることをやっており、今後詰めていきたい。

坂本議員：ウナシーの 80 周年記念バージョンのキーホルダーみたいなものなどを小中学生に配るとか、ウナシーを子どもたちに P R する絶好の機会だと思うが、こういった検討はしないのか。

卯都木地域振興課長：まだ具体的に内容は決まっていないが、12 ページの「とつか魅力再発見事業」のウナシー普及事業で、区制 80 周年に向けたイベントの啓発物品としてウナシーグッズ作成の予算を計上している。

坂本議員：5 ページの「『災害に強いまちとつか』に向けた防災・減災強化事業」について、区本部体制の強化で、区本部の通信機能の確保ということは、区本部とどことの通信をイメージしているのか、どのような器機なのか。

齋藤総務課長：区本部の通信機能の確保については、これまで職員に持たせている衛星携帯電話の経費などで予算執行してきた。現在検討しているのは、駅周辺の浸水対策訓練などの際に、地下では電話の電波が届きにくい現状もあるため、I P レシーバーというものを導入して、地下でも駅周辺の交通事業者や商業施設との連絡手段として有効か試したい。

坂本議員：災害時の通信手段は非常に大事なことなので、訓練の段階からいろいろと試して、特に区の本部機能として、しっかりと結果を検証して着実に進めて行ってほしい。

5 ページの「青少年健全育成事業」について、5 万円の予算減は単純に対象者数の問題なのか。

卯都木地域振興課長：この事業は 29 年度と同じ組み立てで実施する。戸塚駅と東戸塚駅から消防訓練センターに子どもたちを移送するバスの

借上げ料が 29 年度の当初予算よりも安くできた実績を踏まえて減らしたもので、人数を減らしたものではない。

坂本議員：13 ページの「とつか花できれいなまちづくり事業」について、花は年に何回か植え替えをするのか。

白井土木事務所副所長：花できれいなまちづくりでは、花を特に何回植え替えると決めているわけではないが、予算の範囲で、常に花でいっぱいになるようにして、地域の皆様が花を感じていただければと考えている。

坂本議員：非常に良い取組なので、できる限り花が絶えることなく進めていただきたい。事業を進めるときに、種から育てるのも一つの楽しみとなって良いと思うので、しっかりと進めていただきたい。

15 ページの「～地産地消と名所めぐり～とつかウォーキング推進事業」のウォーキングマップについて、新たな区内の名所について教えてほしい。

松本福祉保健課長：ウォーキングマップの新たな名所として、公募した富士山に見える「富士見スポット」をマップ上に掲載した。天気の良いければ、特に冬場はウォーキングを楽しくしていただけるのではないかと思っている。

坂本議員：戸塚駅東口のロータリーに横断歩道を設置していただき感謝している。いい動線ができたと思ったが、バスに乗っているとロータリー内を横断してはダメだというアナウンスが流れている。エレベーターを使える動線ができたので、注意して横断してくださいというようなアナウンスに替えることをバス業者にしっかりと周知していただきたい。良い改善をされたのにもったいと思う。

住宅展示場の前の歩道の拡幅は、いつ完成するのか。

白井土木事務所副所長：住宅展示場前の拡幅工事は、年度内の完成を目標としているが、住宅展示場の利用状況を踏まて、年度を少し超える見通しになっている。なるべく早い時期に完成して駅前の動線を確保できる

ようにしたい。一方で、東戸塚寄りの住宅関連の施設の部分がまだ拡幅できないということもあるので、施設と事業者と、一日でも早く広げることができるように継続的に調整をしていきたい。

坂本議員：道幅に比べると歩行者数が多いので、工事にも気を付けていただきたい。4月になると上矢部高校の新生生をはじめ生徒は慣れていない動線となるので、年度内完成を目指して頑張ってもらいたい。

岩崎議員：戸塚駅東口ロータリーに横断歩道が設置されたり、改修がなされている。地域から期待されて事業が始まっているので、進行状況やこれからの見通しなどを利用者にいつもわかるようにしておくのがいいのではないかと。長年の懸案事項なので、一所懸命に取り組んでいる努力を市民に知ってもらおう周知の方法とPRが必要だと思う。

寒河江区政推進課長：バスのアナウンスの件については承知していなかった。戸塚駅周辺地区住み続けたいまち・みちづくり検討会議の中にバス事業者も入っており、警察等関係機関も入って議論をしている。横断歩道ができたことにより、バスのアナウンスを換える必要性までは事務局として気が回らなかった。住み続けたいまち・みちづくり推進事業の進捗がわかるようにとの指摘については、現在進行形で調整しているところなので、慎重にやらざるを得ないと思っている。

#### 【その他】

横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた行動指針（戸塚区版）策定について

鈴木議員：戸塚区の場合は、関係機関の中には大学を入れるべきだと思う。

4 ページの高齢者人口の推移データについて、高齢化の推移と推定にあわせて、全体人口を含めたほうがわかりやすいと思う。

3 ページの戸塚区町別高齢化率のマッピングについては、要介護度の将来推計があるならば、出したほうがよいと思う。

この分野の施策を展開していくときに意識しなければならないことは、アウトプットからアウトカムへということだ。これは非常に重要で、行政計画はアウトカムを強く打ち出さないといけない。介護予防教室を何回やったのか、それをやっている方がどれだけいるのかということとは

	<p>アウトプットだが、介護予防教室をやった結果、要介護状態にならなくなった人がどのくらいになったのか、従前ならこれくらいの割合で重度化が進んでいたのが緩和されたとか、そういうことを意識しないと2025年は乗り越えられない。全体としてはうまくまとめているが、どういう成果を出していくかという一番根幹となる部分は、もう少し意識して、その先のところを目指さないといけない。</p> <p>4 ページで高齢者を支える仕組みについて見直しを急がなければならぬというように、今のままではいけないという認識をしっかりと打ち出したことは良いことだ。そうであればこそ、どこを目指しているのか、結果的にどうするのかというビジョンを出したほうが良い。取り組む上での目標、意識をそのようにしてもらいたい。</p> <p>3月の策定までに区役所の中で議論をして、検討結果については、きちんと報告してください。宿題として願います。</p>
備 考	